

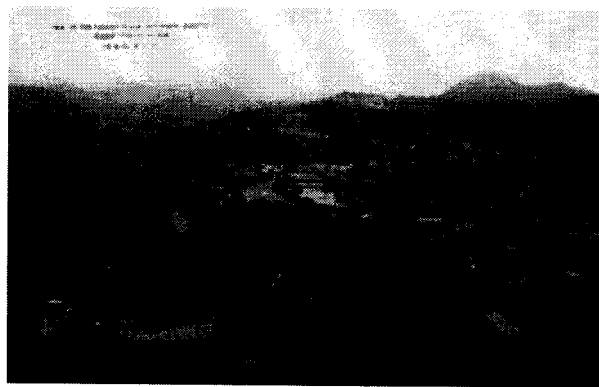
p.6 北投的温泉資源と文化

北投温泉資源

台湾の温泉資源は早くには軍事医療へ提供され、その後民間に広く利用されるようになりました。日本統治時代初期、温泉旅館や浴場の料金は高額で、一般の人々には負担できず、多くの人々が危険を冒し北投溪谷の混浴露天風呂に向いました。風俗の乱れを懸念した総統府や社会団体が、積極的に社会福利性質を備えた「温泉公共浴場」を建設し、北投温泉地が発展しました。公共浴場の普及は、社会大衆の衛生を重視する概念と習慣を育て、疾病伝染の減少を目指すものでもありました。一部の頭の回転が速い商人はこの機会に乗り、温泉地区で新事業を展開しました。「温泉療養」をうたった「浴場」や「旅館」で、初めて台湾に来た日本軍を癒し、郷愁にかられる気持ちを慰めました。



典型的な北投情緒－温泉、緑、美女



北投地区全景

医療、レジャーを兼ね備えた温泉文化

日本人は台湾で最適な温泉開発地を探しました。通常はその地形、交通、温泉性質、気象観察、散歩地の有無、食物源などの優劣が考慮すべき条件となります。そこで関子嶺、知本、北投、金包里などは全て慢性病治療に最適な療養地と見なされ、軍の療養所も開設されました。一部の病状は食習慣、生活習慣、家庭内の雑事、人間関係のプレッシャーから離れれば改善されるため、当時の人々はある種の慢性病を治療するには元の居住地を離れなければならないと考えました。景色が爽快な療養地は患者の精神を安定させたいという望みに応えることができます。そこで温泉の種類、そして最適な地方(気候)の選択が非常に重要な考慮事項となりました。

日本人の風呂好きは、個人の身体療養目的のみではなく、清潔な体、療養、娯楽、休息、社交の温泉文化の結合により、厳格な階級社会を解き解すことにあります。

風呂は各階層が互いに心を打ち明け、一時的に身体境界線を解放する重要な公共空間です。そのため温泉療養地やレジャーに向かうことは日常生活を離れたリラックス空間に向かうということになります。